

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社 ベストケアサービス【Bユニット】	評価実施年月日	平成22年2月11日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月18日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>○「愛と笑顔」を基本理念のもとに、利用者様一人一人に寄り添いながら、笑顔で生活していただけるように、心がけている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>○「基本理念」と「基本方針」にもとづき、職員一同笑顔のある生活を送っていただけるよう日々取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>○理念・方針は施設内に掲示して、家族等来訪する方々の目に付くようにしている。また、面会時等に感じたことやご意見を頂いたり、運営推進会議等でも、ご意見を頂けるよう取り組んでいる。町内の回覧板にてウエスの提供を依頼したり、ボランティアで来訪して下さる方もあり、地域の皆さんとの交流を深める努力をしている。</p>	○	○十分に浸透しているとは言えないため、今後も行事などを通して、ご家族、地域の方々に理解して頂けるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>○積極的に近所の方への挨拶や言葉掛けを行っており、ご近所の方も職員の顔を覚えてくださり、声をかけていただいている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>○町会に加盟しており、町内のお祭りに参加させていただいたり、近隣の学校や幼稚園にも行事の案内を出し、地域の方々との交流を深めている。また、町内会と防災協定を結び、協力体制を整えている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>○町会との防災協定を通じて、打合せを密に行ったり、運営推進会議等を通じて、ホームの取り組みを伝えるとともに地域の現状やニーズを探りながら話し合いを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○前回の自己評価、外部評価を用い職員会議等で実施の意義を理解し話し合いを行っている。。また、指摘のあったホーム便りについて、定期的に個人便りとして日常を伝えられるように努力している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○日々の取り組み状況を報告するほか、十分に利用、活用している。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	○生活保護受給者については繰り返し来訪を受けており、その他事業運営上の教示や情報交換については、できるだけ市町村を訪問し多くの機会をつくっている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	○外部研修の機会には積極的に参加する場が与えられていて、活用・対応できるように努力している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○虐待に関するマニュアルを作成し、何が虐待に繋がるかを理解し、あってはならない事として注意し、関わりを持っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	○入居契約締結時の時点で時間をかけて説明し、特に重要事項に関しては一項目ずつ説明に努め、理解と納得が得られていると思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>○家族会や運営推進会議などの場を活用し、意見を頂ける場を設けている。また、玄関にご意見箱を設置しており、ご意見を反映させられるよう努めている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>○ホーム便りの送付や面会時等にて状態の報告は行っている。また、変化があれば都度、ご家族への連絡を行っている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>○面会来訪時には積極的にお話しし、逆に気になることはないか聞き出すようにしており、意見等があった場合には管理者へ報告し、ミーティングの場で話し合い、改善に努めている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>○職員会議やユニット会議において職員ひとり一人の意見が表出しやすい雰囲気をつくることとし、良い意見は積極的に導入するようにしている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>○ご利用者様の状態に合わせて柔軟な対応ができるように努めている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>○各ユニット毎に担当者が決まっており、馴染みの関係作りに努めている。また、ユニット間に関係なく、ホーム全体として馴染みの関係が築けるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	○外部研修の機会が多く、勉強会などを開催して報告などを行い、その知識を蓄積できるようにしている。また、同系列のグループホームと勉強会を設けている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○道南地区グループホーム協議会に加入して研修会・勉強会に参加する中から介護技術向上に努めているほか、自主研修の一環で施設見学訪問等も行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○運営者は、勉強会を兼ねて一泊二日の職員慰労会や新年会など福利厚生面を充実させる取り組みも積極的に行っており、良い職場環境づくり努めている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	○運営者は、職員の日頃の努力や勤務状況を的確に把握し、評価するように努め、明るく働ける場づくりに取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	○利用前には事前に面談や見学へ来て頂くなどを行い、充分話し合えるような機会を設けている。また、入居後も不安の無い生活を送れるように配慮している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	○利用者一人ひとりの特性把握に努め、ご本人やご家族がどんな場合であっても相談しやすいような環境づくりに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	○必要とされている支援を重点に置くように考慮し、最善と思われるサービスを提供できるように努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	○医療機関や紹介者、家族からの情報をもとに利用者の特性を的確に把握し、様子観察をしながら家族等と連携するように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	○ADLの低下等により、出来なくなったことを自然に介助し、一緒に生活しているという雰囲気を作るよう配慮している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○ご家族との情報交換を密に行い、ご家族の関わりにも重点を置き、その時必要な適切な支援が出来るように努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	○可能な範囲での家庭環境を把握し行事への参加や面会時等に本人とご家族が無理無く接することの出来る場を提供できるように支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	○ご本人との会話やご家族との情報交換の中から希望に沿った面会、外泊、理美容、電話等可能な限り馴染みの関係が保てるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	○ご利用者様の特性を考慮し、相性や習慣性、その時々の状態に配慮しながら利用者同士がより良い関わりを保てるように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	○入院にて契約が終了した利用者についても、見舞い等にて状態把握を行ったり、家族より現在の状態の連絡がきたりと関係がすぐ切れるということはなく、関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	○センター方式によるケアプランの策定を導入しているので本人本位に作成されており、日々のコミュニケーションを心がけながら把握に努め、関わりの中で気付いたことは、話し合いやカンファレンス等でも把握するようにし、ケアの向上を図っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○センター方式によるケアプランの策定を導入しており、本人はもとよりご家族や紹介者等の情報を参考にこれまでの経過を出来るだけ把握し、念入りなアセスメントを行いながら本人に求められる的確なサービスが提供出来るよう把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○申し送りや日々の様子観察等から現状を把握し、サービスプランを提供しながら確認をし、状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○介護支援専門員の適切な整理のもとにケアプランのチェックは毎日行っており、本人やご家族と話し合いカンファレンスや気付いた点等も話し合い利用者本位の生活が営めるように介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○介護支援専門員の適切な整理のもとに状態変化時やご家族の意向など応じ、都度、見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○ケース記録や生活表等は把握しやすいように書式を工夫し、利用者別に記録して、情報を共有しながら実践し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	○ご利用者のかかりつけの病院での受診や内科・皮膚科・歯科・眼科の往診、訪問理美容、面会、外泊、各種行事等の他、送迎のサービスを提供するなどの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	○町内からのボランティアや小学生の来訪など地域との輪が広がっている。また、函館市sosネットワークにも加入して万に備え支援に万全を期している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	○現在、対象者はいないが、ご利用者のご家族の希望のもとに、デイケアセンター等への通所やその他可能な限りのサービス利用ができるよう支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	○運営推進会議のメンバーとなっており、都度、情報交換を行っている。また、地域包括支援センター主催の研修会に参加するなどセンターとの協働が出来つつある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>○協力医療機関の紹介等を行いながら、本人、家族より馴染みのかかりつけ医を確認し、希望があれば馴染みのかかりつけ医を受診できるよう支援している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>○職員は認知症に関する研修に参加して、研鑽を深め、協力医療機関と連携を取りながら職員のみ相談受診や利用者が診察、治療を受けられるように支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>○訪問看護ステーションと契約し、看護師の定期的な訪問により健康管理上の多少の変化も相談し、速やかに対応できるようにアドバイスを受けている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>○入院した場合には、ご家族と共に医師のご意見と診療方針や入院期間の見込みを伺い、その後は職員の頻繁な見舞いと、その都度看護師や、必要に応じて医師のムンテラを受け、家族へも連絡を取っている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>○入居時契約の際に、重要事項の一つに終末期を迎えた際の説明を充分に行い、ご家族の要望もふまえ、医師への相談の中から方針が定められるようにしている。また、必要に応じて都度、ご家族との面談をもうけ今後の支援の方針を定めるようにしている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>○職員会議やユニット会議等で終末期ケアのあり方、方向性を話し合いかかりつけ医と共に協力しながら支援できるよう取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>○申し出により住み替えの必要性があるときには、ご利用者の特性から判断し、ご家族の希望も考慮しつつ、的確なサービスが受けられるような施設の紹介などに努めることとしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>○言葉掛けや目線、姿勢に充分気をつけている。</p>	○	<p>○認知症の特性を理解、把握し個々に合わせた関わり方を今以上に大切にしていきたい。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>○わかりやすい言葉掛けで利用者が自分で希望を表せられるような雰囲気や環境作りに努めている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>○どんな場合においても、ご希望に添った生活が出来るよう努めている。</p>	○	<p>○業務多忙の時でも出来る限りご利用者の希望に添えるよう努めていきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>○希望に沿った服装や化粧へのアドバイス、馴染みの理美容院への付き添い、送迎体制をとることも可能である。また、出張理美容院の活用も併せて対応している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>○個人の嗜好について把握し、好みに合わせた献立に心がけ、万一食べられない食事が用意されたときは、他の物を用意するなどの配慮をしている。また、食事の準備や片付けについては、その方の残存機能に合わせてと共に参加意思の確認大切にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	○ご利用者やご家族の情報を基本として、柔軟に対応出来るようにしている。但し、お酒については本人の健康状態や特性から一定量までの理解を求めている。煙草やマッチ・ライターについては危険防止の立場から、お預かりして必要に応じ喫煙場所のご利用を協力願っている。また、現在喫煙者がいないため、全館禁煙となっている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	○ご利用者個々の排泄パターンを出来るだけ早期に、利用者にとって最適な排泄環境を提供している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	○希望により毎日入浴出来るようにしており、入浴に要する時間も個人の希望に合わせている。	○	○より入浴を楽しむことができるよう雰囲気演出するなど工夫していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	○自室以外の休息の場として、ソファーや和室を用意しており、音や光などにも注意して、ご本人のペースで休息出来るように配慮している。また、希望があれば他利用者居室への泊まりも可能となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	○個々のご利用者が待っている楽しみ事を把握し、ご利用者が共同で行えること、個人で行うことなど、ペースに合わせた楽しみが得られるように支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○管理者管理のもと個々の預貯金通帳を預かるなど、一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	○ご利用者の希望に応じて買い物や外出が出来るように職員配置を調整するなどして、機会を多く取れるよう配慮している。また、日常的に近くの公園へ散歩に行くなど季節を肌で感じ、リフレッシュが図れるように支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	○外出行事等で普段行けない場所への立案・実行している。その際、ご家族も同行して頂き、ふれあう機会を設けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○ご希望に沿い支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○いつでも気軽に訪問していただけるように時間の規制も設けず、来訪の際には居心地良く過ごせるように努めている。また、プライバシーも守られるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○マニュアルを作成し、全職員が意識し、拘束のないケアサービスに努めている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○防犯上夜間は施錠しているが、日中の時間帯や居室にも施錠はしていない。また、ご利用者外に出られる様子がある場合には、さりげない言葉かけや、職員同行により安全面にも配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	○安全な生活が送れるようプライバシーに配慮しながら声掛けや見守りをおこなっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	○ホームで所有している危険物に関しては、数の確認や保管場所について充分留意している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○利用者の現在の状態を職員全体が把握し、ヒヤリハットや事故報告を挙げて意見交換する事で、反省を含めた危機管理への取り組みとしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	○介護、救急等の講習会に積極的に参加し、スキルアップを図っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○定期的な避難訓練の実施、近隣住民の協力要請、町内会との防災協定を結ぶなど相互の協力体制を確立している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○利用者の状態変化、今後起こり得る事柄やその対応方法など家族と十分な話し合いを持ち、方向性を決めた上で介護に当たるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	○日々の観察やバイタル測定などの記録を元に、細心の注意を払い、少しの変化も見逃さないよう充分留意している。常にかかりつけ医や訪問看護との連携がとれる体制を整えている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	○処方箋を必ず個人ファイルに綴り、職員誰もが確認できるようにしており、また新規に処方された薬について情報が不足する際には、ピルブックを活用して理解に努め、結果の観察にも留意している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	○便秘の予防策として、水分補給や乳製品の摂取、排泄記録や細かく状態の観察を行い必要な場合には医師への相談、受診などを行うよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	○毎食後の声掛けにより口腔内の清潔を保持出来るように支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	○食事や水分の摂取量を確実に把握出来るように努め、一人ひとりの状態や能力に合わせて、必要量が提供できるように支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	○予防対策マニュアルをもとに職員全員うがい手洗い等感染防止に努め家族の面会時や来訪者にも感染防止の周知に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○新鮮な食材の購入や台所に入出入りする際の手洗いや滅菌剤の利用を励行して衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○車椅子を利用される方にもバリアフリーで面積を広く確保し、ロードヒーティングを設置し、安全面にも充分留意している。また、プランター等で花を飾る等雰囲気づくりに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○建物内への採光や換気が良く廊下幅も広くして眺望性にも配慮した設計により、穏やかな空間作り、心地よい空間作りが実現出来ている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	○利用者同士が交流出来る空間、一人で自由に過ごせるような空間を出来る限りもうけ、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○居室には本人が使い慣れた家具類や調度品、その他思い出の品などを持ち込んでいただき居心地の良い居室作りがなされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	○換気をこまめに行い、加湿器・冷暖房の調節により、心地よく過ごしていただけるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>○建物内は広いスペースを確保しており、手すりを多く設けるなど安全かつ自立した生活が送れるようにしている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>○共有スペースには文字や絵を活用し、わかりやすいようにしている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>○リビングからは、津軽海峡越しに函館山が眺望できるなど、居ながらにして外の状況が感じ取られるように設計されている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	①

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	①
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

決まり事を作らないように個別支援に力を入れている。